



にじの郷たにやま通信

2025年 8月発行

第33号

発行責任者／理事長 水谷 吉伸 鹿児島市中山町5028番地80 電話099-267-3977



目次

いつでも相談できる福祉の総合窓口へ	… P1
2025年度事業計画	… P2
2025年度役員・評議員、役職者体制	… P4
特養ホーム 1年の活動	… P5

保育園の1年の活動	… P6
2024年度事業及び決算報告	… P7
デイ本町 開設20周年を迎えて	… P8

▲みんな楽しく ~笑顔あふれる にじの郷~

いつでも相談できる福祉の総合窓口へ ～相談機能強化の取り組み～

2025年度の事業計画の重点課題の一つに相談機能の強化への取り組みを掲げています。私たちとつながる全ての人の安心と幸せを願い、福祉の専門家として寄り添い一緒に考えることを大切にします。

取り組みの具体化として『相談会』を開催することにしました。開催に向け2024年11月から準備を始め、法人事業所の玄関に相談窓口案内として『のぼり』を設置し、地域の方々へは広報資料を回覧板で配布しました。また、医療機関や地域包括支援センターなどへ広報資料を配布するなど広域的に福祉相談活動の周知を行いました。相談会は2025年3月より毎月第1土曜日に開催しており、毎月3件程度の相談があります。相談内容としては介護保険の申請や介護サービスの利用、施設入居の相談が多く、自宅での介護の不安や負担に対しての相談もありました。内容に

よっては法人内の事業所へ繋ぐことで迅速な対応ができます。希望のサービス利用や施設入居に繋がったケース、困っていることや今後のことへの不安などについて話を聞いてもらい、アドバイスがもらえたことで気持ちが楽になったと話される方もいらっしゃいます。

今後も広報活動の幅を広げ私たちの取り組みを知っていただくとともに、相談会を通して地域の方々が抱えている問題や困りごとの情報収集を行い、必要に応じて地域にある居宅介護支援事業所や関係機関とのネットワークを深め協同していきます。

地域の方々がいつでも相談しやすい事業所として、また、相談に来られた方が住み慣れた地域で安心した暮らしが継続できる地域のかけ橋となることができるよう努力していきます。引き続きのご支援・ご協力をお願ひいたします。

2025年度 事業計画

2025年度は、「『その人らしく気持ちよく生きる』によりそう。つながるすべての人へ幸せと笑顔を届ける。」を中心テーマに、サブテーマとして「つながりを増やし、地域とくらしの安心を結ぶ」「楽しさや生きがい、こころと身体の健康、くらしを支える事業で役割を果たす」「歴史と理念を深め、学び成長し、一人ひとりが輝き、挨拶と笑顔ある職場づくりに取り組む」の3点を掲げました。

今の私たちが生きる社会とこれから先の時代を考える時、私たちの運営理念で掲げる「人間の尊厳と基本的人権の尊重」を深め輝かせていくことが大切になっています。

いのちや健康が大切にされ、くらしにかかわることがらが、これから先も希望や展望がもてる、そんな社会が求められています。

国の機関の発表によれば、2050年には一人暮らし世帯の割合は鹿児島県で45%、65歳以上の割合は24%と報じられています。そのような中で、地域内での交流や人と人のつながりと支えあいは、「孤立」を防ぎ、幸せに生きる上でかかせないものになっています。

私たちは、介護福祉・児童福祉にかかわる事業と地域での活動を通じて役割を発揮します。

明日へのくらしが描けるよう相談活動を大切にします。『その人』にかかわるつながりを増やし、サポートします。事業と活動を通じ、私たちがつながるすべての人へ、笑顔を届け、『その人らしく気持ちよく生きる』『幸せで笑顔ある人生』となるよう寄り添います。

未来を担う子どもの心身の豊かな発達につながる事業と活動を大切にします。

職員のやりがいと楽しさを大切にし笑顔ある職場づくりと事業運営に取り組みます。

〈事業活動の重点課題〉

①多機能なサービスで「その人らしく」をまるっとさせます。総合力と連携で役立ちます。「虹の福祉会まるっとケアにじ」で描いている、在宅支援から通所、介護度や身体機能にあわせた複数の施設まで、多機能で総合的なサービスで利用者の心地よいくらしをさせます。

事業の質の向上に取り組み、私たちの特徴として伝え、地域や利用者に選ばれる諸活動をすすめます。

②相談活動を強めます。つながるすべての人の安心と幸せを願い取り組みます。専門家としてのかかわりと、寄り添い共に考えることを大切にします。事業利用者など、対人支援においては、課題解決のアプローチと継続的につながっていくアプローチを支援の両輪として大切にします。地域や対外的に相談窓口等の機能についてわかりやすくし広がりをつくります。

③すべての事業所で事業収益予算の確保に取り組み、継続発展できる経営基盤をつくります。私たちの施設や事業所定員枠は地域福祉の資源であり、事業利用を通じて様々な介護福祉の支援と援助が可能となります。予算に基づく利用者確保の取り組みをすすめます。必要な設備等の投資や職員の生活を守る上でも健全な経営に取り組みます。

④事業の継続・発展の要である人材の確保を強めます。広報活動や学校訪問活動、見学や体験の受入れを工夫します。職員のやりがいと楽しさを大切にし、笑顔ある職場づくりに取り組みます。気持ちよい挨拶や感謝の声かけのある職場風土・文化を育みます。

⑤私たちのありたい姿や実現への「みちすじ」の討議を工夫しながら今後のビジョンづくりに繋がる取り組みをすすめます。

1、事業活動

①介護事業

○運営理念で掲げる「人間の尊厳と基本的人権の尊重」をより一層深め、事業運営を行います。「その人らしく気持ちよく生きる」に寄り添い、諸活動の充実を図ります。人と人とのかかわりの中で自分の存在と楽しく生きる活動を大切にします。

○多機能なサービスで「その人らしく」をまるっとさせます。総合力と連携で役立ちます。

○事業の質の向上に取り組みます。取り組み課題は、事業所毎に設定し、地域福祉の中で事業所の優れた特徴として定着をすすめます。健康管理、日常の身体機能の維持、口腔ケアの向上、介護ケア、相談機能、広報など、幅広く対象を検討します。

○2024年度より開始した口腔衛生ケア向上の取り組みの更なる充実と広がりをつくりましょう。歯科医・歯科衛生士との定期協議も工夫し、ケア向上の進捗と課題等を共有し取り組みます。通所系事業所ではオーラルフレイル予防の体操やレクリエーション等の企画も工夫します。

○健康管理向上では、医療連携を多職種ですすめると共に協力医療機関連携会議を活かし取り組みます。入院の場合は状況と見通し把握を行い、介護福祉の現場からの提案も医科の方へ行います。入院と療養中に医療機関と確認する事項をまとめた「シート」等の研究と活用を検討します。

○利用者が楽しんでもらう上で、挨拶、笑顔、職員自身の楽しさを大切にします。利用者の身体の状況、心の状態、いきがい、くらしの質、社会とのつながり、日常の機能を大切にした事業と活動に取り組みます。諸活動の中で利用者の役割分担・参加など社会参加やいきがいや楽しさを実感できるように工夫します。楽しく食べること、会話や人とのつながりを大切にします。

○相談活動は重点課題のひとつであり、工夫も行い強化します。私たちの事業でつながるすべての人が幸せになれるよう取り組みます。問い合わせや相談の第一報を大切にします。状況の把握や提案やアドバイスの活動を行います。将来のくらしや介護福祉を含めたライフデザインを描くお手伝いをします。

○コロナ感染症へは引き続き留意し、基本的感染対策を継続します。

②保育事業

○保育目標、方針に基づき、子どもの心身の発達に寄り添った保育に取り組みます。

○保育園施設や設備、備品等の補修や整備、更新に対応

- できる事業するために、事業収支や資金確保など保育園に係る経営基盤の改善強化は大きな課題となっています。運営の工夫も行い、定員(90名)までの園児受入れに取り組み、収支の改善をすすめます。
- 保育士が安心して保育を担え、保育園が持続可能な事業であるために、実効性のある政策や仕組みづくりが求められます。行政や国への働きかけを他の事業所や団体と共に取り組みます。
 - 子どもと職員の健康と安全管理に努めます。危機管理を高め、事故防止や各種訓練に取り組みます。
 - 保護者や家庭との協力・連携を深めます。
 - 行政関係機関、学校、園医、発達支援事業所等との連携で子どもの発達支援、保護者の子育て支援に取り組みます。
 - 子どもの権利と尊厳を守り育む保育活動と地域社会づくりに貢献します。

2. 人事・管理運営、教育研修

- 事業の継続と今後の発展のために、職員の採用を法人の最重点課題として取り組みます。新卒者の受け入れの拡大をすすめます。また、安定した運営体制となるよう中途採用者、職種毎の対策など、年間の採用計画にそって取り組みます。採用後の研修とフォローを充実します。
- 教育研修の充実を図ります。制度教育と事業所や職場での教育研修や学習会など、現在の取り組みを「見える化」します。専門性を高め、職員のキャリアアップにつながる教育や研修参加など情報収集し活用します。これらを視覚的にわかるように図式化し、採用対策においても活用できるようにします。
- 事業運営で必要となる資格要件や更新手続きを整備すると共に、育成の計画や更新の管理を行い、目標を持ち計画的に推進します。
- 職員の成長を促し、事業内容や質の向上に役立てるために、他施設等への見学研修や研修参加など積極的に推進します。また、外部講師による講演など工夫します。
- 気持ちよい挨拶と「ありがとう」等の感謝の声かけのある職場風土・文化を育みます。
接遇の向上は、事業活動の質の担保と円滑なコミュニケーションと運営に不可欠であり、地域や来訪者、他事業所や学校関係機関での評価にもつながります。挨拶、接遇の向上の取り組みを推進します。
- 平和と民主主義、医療介護やくらしをめぐる社会的状況や取り組みについて学びます。
- 介護でつだい隊の受け入れを積極的に行い、地域の方々の協力を得て運営します。

3. 経営管理

- 組織と事業の継続発展のため、職員の生活を守るため、経営の改善が必要です。
事業収益は10億円到達と収益予算の達成に取り組みます。収益に見合う適切な費用管理を行い運営します。
- 事業収益の確保では、利用者の継続的確保で件数・一日平均等の予算到達状況の把握と対応が大切になります。施設入居床や各施設の定員は地域福祉の資源であり、空床や施設定員未達の期間短縮に取り組みます。
- 全職員で経営を守る活動をすすめます。予算到達状況と利用希望者の把握と確保など、情報を共有し取り組みます。費用管理を適正に行います。事業利用者数に照らした適正な人員配置で運営を行います。人件費の伸びに見

- 合う収益の確保で、適切な人件費率の管理に留意します。
- 事業所毎に事業収益の確保と資金収支を重視した経営管理に取り組みましょう。施設の建物・設備補修・機器更新等の投資が計画的に可能となる事業運営を行います。今後の計画的投資計画や政策課題との関連で資金需要を見込み、必要となる事業キャッシュ等の検証を行います。2025年度の事業活動資金収支差額額(事業キャッシュ)1億円をめざします。
 - 医療・介護の制度改革や報酬改定、今後の社会保障制度改革のうごき、人口動態と介護需要の予測を含め、これらの時代変化に対して事業の継続と役割を發揮できる事業戦略づくりをすすめます。事業によっては経営及び体制見直し等を含め今後の方針と対応について検討していくものとします。
 - これらのこと踏まえ、私たちの役割を果たし、職員の生活を守り、事業の継続・発展のため、必要となる経常増減差額を確保します。
 - 社会福祉法人の会計基準に沿った経営管理を行います。

4. 法人運営

- ガバナンスとコンプライアンスを強化し運営します。
- 感染症に対する基本的感染対策を継続しながら事業運営を行います。感染対策の重要性について地域に発信します。コロナ感染症に関する検査やワクチンなど、医療・介護事業所への財政的公的支援の実現を他団体と共に働きかけます。
- 国の制度見直しや社会的状況や変化を注視し、多様な働き方を含め、人事労務の諸制度の改善を政策化します。
- 外国人特定技能制度を活用した労働者の受け入れなど情報収集と研究を行います。
- 広報活動の強化が、採用対策や事業利用の点でも重要です。広報の対象を明確化し、ツールや内容の工夫を取り組みます。ホームページの改善を図ります。これらの対応は、ノウハウの入手も含め、年間計画を作成し取り組みます。
- 業務委託事業者との相互協力の中でより良い事業運営をすすめます。
- 事業所をこえてそれぞれの活動の特徴を伝えあい、職員相互の理解を促進します。
- 2024年度に設置した生産性向上委員会の討議をすすめ、業務効率化や改善に取り組みます。

5. 地域福祉への貢献、まちづくり

- 相談機能を高め取り組むことを、法人事業計画の重点課題のひとつとして位置付けます。一人暮らしや高齢者世帯の増加や社会保障制度等の仕組みが複雑化する中で、専門家としてつながりをつくりサポートすること大切にします。相談機能や窓口、相談日の設定など、対外的にもわかるようにします。
- 誰もが安心してくらし続けられるまちづくりに貢献します。地域にある様々なネットワークとのつながりをつくります。地域組織や諸団体、事業所、店舗などとの連携でまちづくりに貢献します。地域資源とネットワーク等を可視化し、取り組みます。
- 町内会、民生委員、地域の協力機関(者)との日ごろからの交流を大切にします。
- コーピーかごしま、大学生協、医療生協の諸活動を知り、事業と運動での連携を図ります。2025年は国連が定めた国際協同組合年であり、食やくらし、健康等の地域課

題や困りごとの解決への情報交換をすすめます。医療生協のおたがいさま活動・ボランティアすまいるとの連携を図り、くらしの助け合いの輪を広げます。

○災害と感染に対するBCPは定期的メンテナンスし、職員への周知や訓練を継続して取り組みます。全国で広域災害が発生しており、国の支援策と行政の「事前復興計画」の策定状況も把握し、災害に強いまちづくりの働きかけを取り組みをすすめます。

○気候危機問題やSDGsについて学び、できることから行動し、発信も工夫します。

○誰もが健康で平和にくらせる社会の実現に向けて幅広い人々と連帯・連携します。

権利としての社会保障を守り発展させる運動に他団体と共に取り組みます。ジェンダー平等・多様性を尊重し、すべての人の人権が守られる公正な社会づくりに貢献します。

評議員会写真(2025年6月10日 2025年度第1回定時評議員会)



退任役員・評議員 挨拶

2025年度 役員・評議員体制

[役員名簿]

役 職	氏 名	職業・役職名
理 事 長	水谷 吉伸	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 理事長
副理事長	木田 博文	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 副理事長、生協往診クリニック院長
理 事	田中 喬也	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 法人本部長
理 事	田代 真也	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 介護次長・特養ホーム施設長
理 事	小田 広行	社会福祉法人鹿児島虹の福祉会 にじのさと保育園 園長
理 事	乗添 友尚	鹿児島医療生活協同組合 健康まちづくり部 部長
理 事	山口 斎	生活協同組合コープかごしまくらし支援部 部長
監 事	加治屋忠一	株式会社南日本薬剤センター 薬局 やくし店 薬局長
監 事	小園 隆	生活協同組合コープかごしまくらし支援部 部長スタッフ

●任期：2025年6月10日定時評議員会選任後～

2027年6月定時評議員会終結時

●2025年6月10日第1回定時評議員会にて選任。
同日第2回理事会にて理事長、副理事長選定。

[評議員名簿]

氏 名	職業・役職名
畠地 周一	中山地区民生委員・児童委員
黒川 久美	社会福祉法人麦の芽福祉会 常務理事
児山 正志	生活協同組合コープかごしま 元物流部長
竹迫 和之	鹿児島大学生協 専務理事
田中かすみ	鹿児島医療生協 非常勤監事
田中 安平	一般社団法人鹿児島県介護福祉士会 会長
三浦 桂	南日本薬剤センター 総務部部長
宮尾メリ子	鹿児島医療生協 元非常勤監事
山門慎一郎	南日本薬剤センター 薬局長
和田 健一	生活協同組合コープかごしまくらし支援部 福祉事業課 課長

●任期：2025年6月10日定時評議員会終結後～

2029年6月定時評議員会終結時

2025年度 役職者体制 (2025年7月時点)

役 職	任 務	氏 名
本部	理 事 長	代表理事
	副理 事 長	副理事長、生協往診クリニック院長
	法 人 本 部 長	法人統括責任者(法人事務長 兼務)
特養 ホーム	施 設 長	施設管理者(介護次長 兼務)
	介 護 課 長	施設長補佐、介護業務責任者
	看 護 課 長	施設長補佐、看護業務責任者
	生 活 相 談 員 主 席	生活相談員、ショートステイ責任者
	介 護 係 長	従来型 東
	介 護 主 席	従来型 西
	介 護 主 席	従来型 東
	介 護 主 席	ユニット 福
	介 護 主 席	ユニット 幸
	介 護 主 席	ユニット 和
事 務 課 長	本部長補佐、経理業務責任者	小原 聖子
事 務 課 長	本部長補佐、事務業務責任者	末吉 健治

	役 職	任 務	氏 名
特養 ホーム	事 務 係 長	本部長・事務課長補佐、総務業務責任者	海江田 駿
	所 長 主 任	事業所管理者	竹内 弘樹
	機 構 訓 練 主 任	所長補佐、機能訓練責任者	竹下 知香
ヘルパー	所 長 係 長	事業所管理者(サービス提供責任者)	山下 和宏
	所 長 係 長	事業所管理者	田口 容子
居 宅	介 護 支 援 専 門 員 係 長	所長補佐	池田 義信
	所 長 係 長	事業所管理者	松元憲一郎
デイ 本町	介 護 主 任	所長補佐	井上 裕美
	施 設 長	施設管理者、生活相談員兼務	竹下 順造
ケア ハウス	介 護 係 長	施設長補佐、介護支援専門員、介護職員兼務	五反田佳岳
小多機	所 長 課 長	事業所管理者	前田 明代

保育園	保育園 園長	施設管理者	小田 広行
	保育園 課長	園長補佐、主任保育士	青屋菜穂子

特別養護老人ホーム にじの郷たにやま



特養ホーム1年の活動

～医療・歯科連携強化の取り組み～



2024年度介護報酬改定では、「地域包括ケアシステムの深化・推進」が重要なテーマとしてあげられました。特に介護保険施設と医療機関の連携に関しては新たな加算が新設されるなど、施設における健康管理や医療機関との連携が運営上重要視されています。

にじの郷たにやまでは入居者様のフレイル対策として肺炎予防、栄養状態向上、それに伴う生活の質の向上を目的として、協力医療機関や地域の医療機関との連携強化のため二つの取り組みを進めました。

一つは医療機関との連携会議の開催です。会議は毎月開催し、協力医療機関の医師と施設の職員(多職種)が参加し協議を行っています。協議する内容としては、主に入居者様の健康管理の方針決定や生活の質向上を目的とした情報の共有とケア方法の検討を実施しています。医師を含めた多職種で協議すること

により、医療機関との連携や多職種間のコミュニケーション向上に繋がっています。

もう一つは、口腔衛生管理向上のため年2回の訪問歯科診療の実施です。地域にある歯科医院の協力を得て、訪問診療を実施しています。訪問診療を通して、入居者様の口腔内トラブルの早期発見と治療、病気の予防に繋がっています。また、歯科医師・歯科衛生士との情報共有と口腔ケアの指導を受けることで、施設における口腔ケアの技術向上にも繋がっています。

これらの取り組みの成果として、入居者様の病気の予防と入院日数の減少、施設と医療機関との連携強化がすすみました。2025年度はさらに連携を強化することで業務の効率化を図るなど生産性向上にも努めます。引き続き、地域の福祉施設としての役割と機能を果たし、利用者から選ばれる施設づくりを進めていきます。

にじのさと保育園

みんなの一年

～輝け！にじのさとの子どもたち～

園での生活の中で、子どもたちは様々な体験や経験をして毎日元気に遊んでいます。そして、子どもたちのにぎやかな声がそれぞれの保育室から聞こえてきます。

毎月実施している誕生会と園外保育では、給食のごちそうやお弁当が子どもたちの楽しみになっています。親子遠足では家族と一緒にゲームを楽しんだり、クラスごとの交流を深めています。運動会では気持ちを一つに、笑顔がいっぱいです。元気があふれた、みんなの運動会を楽しめます。発表会では保育者や友だちと『ごっこ遊び』をするなかで人と関わる心地良さを感じたり、絵本のお話をイメージしながら、言葉にして表現することを楽しむことができます。にじ広場にある畑では、毎年、トマト、ピーマン、すいか、白菜、大根などを植え

て成長を楽しみにしています。水やりや草取りをする子どもたちと入所者様との交流も行われています。

保育ではチーム保育やグループ活動など、コミュニケーションをとりながら楽しく保育ができる工夫を行っています。また、異年齢児との交流も積極的に取り入れています。小さなお友だちをお世話したり、一緒に遊んだりすることで、相手を思いやる気持ちが育ち、子ども同士で育ちあう様子が見られます。

保護者の皆さんとは、保育に関する情報交換を行い相互の理解をすすめています。また、必要に応じて公共の専門機関との連携に取り組み、子どもたちの成長と一緒に見守っています。

〈親子遠足〉



▲ 親子でゲームを楽しみました。

〈川遊び〉



▲ 慈眼寺公園で水遊び。冷たくて気持ちいい。

〈七夕〉



▲ みんなで、飾り付けを頑張りました。

〈特養ホームとの交流〉



▲ 絵とお手紙をプレゼントしました。

〈野菜の収穫〉



▲ 大きな「白菜」を収穫しました。

〈運動会〉



▲ 走ったり、跳ねたり頑張りました。

〈発表会〉



▲ みんなの前で緊張したけど、頑張りました。

2024年度事業及び決算報告

■ 2024年度は施設管理者(施設長)の交代や今後の管理者の定年や次の幹部育成を見据えた法人運営体制構築の為の人事を行いました。

感染の波を繰り返している新型コロナウイルス感染症への基本的な対策の徹底に努めました。また、事業計画に基づく職員育成の取り組み(制度教育研修会の開催等)や相談機能強化への取り組みの具体化として2025年3月から相談会を開始し、利用に繋がるケースもありました(相談会は毎月開催予定)。

制度教育研修会では、事業の質を高める課題や専門家としての他者へのかかわり方の工夫等について、講義や分散会での意見交換を行いながら学びを深めました。

法人全体として経営的な厳しさは2024年度においても続きました。2024年度介護報酬改定への対応を進め、新たな加算取得と上位区分の加算算定に向け準備を進めました。特養ホーム及びケアハウスについては空床後のスムーズな入所(居)者受入れにて一定の改善が図られてきましたが、特養ホームでは3月以降、退所による空床が経営にも大きな影響を及ぼしました。短期入所や通所系サービスについては感染が発生した際のキャンセル等が多く、利用者確保やキャンセル後の振替利用などが引き続きの課題です。利用者確保と安定した利用継続を追求し、予算目標の達成を追求することが重要です。また、事業継続のために必要な職員確保を最重点課題として位置づけ取り組んでいますが、厳しい状況が続いている。今後も対策の具体化に取り組みます。

■ 介護事業では、職員体制の安定を目指して採用活動を進みました。年々職員確保が困難になる中、資格取得養成校以外の高等学校への訪問も実施しました。2025年度の新卒採用として2名を採用することができました。

新卒職員の受け入れについては、12月に内定者のつどいを開催し新卒職員同士だけではなく担当先輩職員との交流も深めることができました。新卒職員が安心して入職し、働き続けることができる為の取り組みを継続します。

通所系事業所では歌や踊りのボランティアの受け入れを積極的に進めています。町内会の夏まつりなどの行事、奉仕作業やまち美化活動、防犯パトロール、校区防災訓練への参加、地域住民の介護アルバイト(介護てつだい隊)の受け入れを進め、地域との交流を進めました。

介護サービスの質の向上においては、科学的介護情報システムの運用を進めています。今後も介護過程の展開を位置づけ、ケア計画に基づき多職種との連携を図りながら質を向上させ利用者満足度の向上に努めます。

また、入所(居)施設では医療連携(協力医療機関連携会議)と歯科連携(口腔ケアの取り組み)の具体化が図られました。引き続き、利用者様の健康管理や身体機能の維持、口腔ケアの向上に努めます。

■ 保育事業では、職員体制も落ち着いてきましたが、まだまだ新卒採用を含め職員採用は厳しい状況です。職員配置の関係上、2023年7月からは利用定員を90人に変更しましたが、上限までの受け入れができるていない状況が続きました(2025年3月:在園児81人)。

基本的な感染対策を継続し、工夫した活動を進めました。また、昨年に続き、6月には園児、施設入所者、通所事業所利用者、職員との合同での写真撮影や事業所訪問を実施し交流が図されました。

保護者との関係づくりについては、入園式で今年度の保育計画をお伝えし、6月には懇談会を開催しました。また、保護者の保育参観では子どもと園と一緒に過ごしてもらうことで、子どもたちの様子を伝え、情報の共有と関係づくりに努めました。

一人ひとりの子どもの発達を見極め、気になるところは保護者にお伝えし、必要に応じて関係機関への相談につなげるなど、子どもにとって今必要なことを保護者と一緒に考えることができますように努めました。

2024年度決算概要

貸借対照表(2025年3月31日現在)

(単位:千円)

科 目	科 目	科 目	
流動資産	590,065	流动負債	112,369
現金預金	452,928	事業未払金	32,519
事業未収金	133,453	1年以内返済借入金	52,048
その他	3,684	その他	27,802
固定資産	1,779,141	固定負債	188,219
基本財産	1,640,524	設備資金借入金	160,527
建物・建物付属設備	873,034	リース債務	0
土地	767,490	退職給付引当金	22,742
その他の固定資産	138,617	長期預り金	4,950
		負債合計	300,589
		次期繰越(うち当期活動収支差額)	1,221,704 71,017
		純資産	2,068,617
資産合計	2,369,207	負債及び純資産の合計	2,369,207

2024年度事業収支決算(2024年4月から2025年3月) (単位:千円)

	予 算	実 繢	予算比
介護保険事業収益	910,147	855,315	94.0%
保育事業収益	101,651	125,577	123.5%
ケアハウス収益	47,617	47,449	99.6%
経常経費寄附金収益	240	30	12.5%
サービス活動収益計	1,059,656	1,028,372	97.0%
人件費	702,679	652,079	92.8%
事業費	146,957	145,420	99.0%
事務費	128,767	123,758	96.1%
利用者負担軽減額	2,874	1,097	38.2%
減価償却費	69,805	69,274	99.2%
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 25,667	△ 25,632	99.9%
サービス活動費用計	1,025,417	966,328	94.2%
サービス活動増減差額	34,239	62,043	181.2%
サービス活動外増減差額	11,441	8,973	78.4%
経常増減差額	45,680	71,017	155.5%
予備費	10,300	0	
会計基準当期増減差額	35,380	71,017	200.7%
次期繰越増減額	1,186,067	1,221,704	103.0%
当期活動増減差額(国庫補助金関係除く)	9,713	45,385	467.3%

※2025年5月20日:第1回理事会、2025年6月10日:第1回定期評議会にて承認

2025年度予算概要

2025年度事業収支予算(2025年4月から2026年3月) (単位:千円)

	予 算	前年実績比
介護保険事業収益	911,460	106.6%
保育事業収益	114,648	91.3%
障害福祉サービス等収益	0	0.0%
ケアハウス収益	48,454	102.1%
経常経費寄附金収益	240	800.0%
サービス活動収益計	1,074,803	104.5%
人件費	706,218	108.3%
事業費	154,122	106.0%
事務費	132,971	107.4%
利用者負担軽減額	2,874	262.0%
減価償却費	68,443	98.8%
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 24,771	96.6%
サービス活動費用計	1,039,857	107.6%
サービス活動増減差額	34,945	56.3%
サービス活動外増減差額	6,131	68.3%
経常増減差額	41,076	57.8%
予備費	10,300	—
会計基準当期増減差額	30,776	43.3%
国庫補助金関係除く増減差額	6,005	13.2%

※2025年3月18日:第6回理事会にて承認

ディ本町 開設20周年を迎えて ～地域に出かけて楽しみづくり～

当事業所は、2005年3月に開設し20周年を迎えました。これまで認知症への取り組みとして、学習活動や家事活動、歌活動やご家族への支援など様々な活動に取り組んできました。中でも季節の行事以外に1日1回を目標に外に出かける外出活動は、多くの方が楽しみにされています。「○○の花がきれいだったよ」「今日はどこに行った」とご家族へ楽しそうに話されることもあるそうです。ご家族からは「色々なところに連れて行ってもらえて羨ましい。今度私も行ってみたい」と好評をいただいています。



▲公園でのんびり雑談

今後の取り組みとして、2024年1月に、認知症の人とその家族が安心して暮らせる社会の実現に向けて『認知症基本法』が施行されました。その中のひとつである「相談体制の整備」を拡充し、地域貢献へつなげていきます。



▲慈眼寺公園 さくら広場へお花見



▶マリンポートでお散歩

にじの郷で 一緒に働きませんか！

- 一緒に働いていただける職員を募集しています。
- 見学も随時受け付けています。
- 介護・保育の現場で働きたい方は是非ご連絡ください。
また、お知り合いで働きたい方がいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。



社会福祉法人 鹿児島虹の福祉会

- 特別養護老人ホームにじの郷たにやま（ショートステイ併設）
- デイサービスセンターにじの郷たにやま
- ヘルパーステーションにじの郷たにやま
- 介護支援センターにじの郷たにやま
- 本部

〒891-0105 鹿児島市中山町5028番地80
TEL.099-267-3977 FAX.099-267-3180

- ケアハウスにじの郷小松原

〒891-0114 鹿児島市小松原1丁目15-19
TEL.099-210-5130 FAX.099-210-5223

- デイサービスセンターにじの郷たにやま・本町

〒891-0141 鹿児島市谷山中央3丁目4582番地 谷山中央ビル2階
TEL.099-263-5066 FAX.099-263-5068

- 小規模多機能ホームにじの郷たにやま

〒891-0105 鹿児島市中山町5028番地78
TEL.099-813-8140 FAX.099-813-8141

- にじのさと保育園

〒891-0105 鹿児島市中山町5028番地87
TEL.099-263-1202 FAX.099-263-1208

